

第5章 国際会議の概要

本研究を進めるにあたり、陸域からの汚濁負荷シミュレーションモデル並びに海洋海流シミュレーションの構築手法などの詳細について、日中韓露の研究者らと定期的に意見交換を行いながら手法の妥当性を確認してきた。また、同時に海外における汚濁負荷流出などの情報の収集、海外の先生の意見を踏まえたモデル計算手法の修正などを行ってきた。

本研究に係わった日中韓露の中心的な研究者らは具体的には、北九州市立大学大学院の楠田哲也(KUSUDA Tetsuya)教授(日本)、ソウル市政開発研究院の金甲守(KIM Kap-Soo)前前任研究委員(韓国)、清華大学の杜鵬飛(DU Pengfei)准教授(中国)、同済大学の李光明(LI Guangming)教授(中国)、ロシア科学院太平洋地理学研究所のウラジミールシュルキン(Vladimir Shulkin)所長(ロシア)である。

2008年度、2009年度、2010年度それぞれ年一回ずつ上記の研究者らを日本に招待し国際会議等を開き、各国における陸域からの汚濁負荷対策等を議論し、意見交換を行った。また、我々の研究で進めている調査手法についても各国際会議等の中で、有益なコメントを多数頂いた。

2008年度は、京都大学と共催で京都大学 百周年時計台記念館 国際交流ホールにて国際シンポジウムを開催した。プログラムは以下の通りである。

- タイトル：国際シンポジウム「日本近海における海洋環境保全—陸域対策のための研究パートナーシップ」
International Meeting for the Clean Water in Our Northwest Pacific Sea—Research Partnership for Land-Based Actions—
- 開催日時：2009年1月27日(火) 13:00～17:40
- 開催場所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホールI・II(吉田キャンパス)
- 主催：京都大学GCOE「アジアメガシティの人間安全保障工学拠点」、国土交通省国土技術政策総合研究所
- 後援：大阪湾再生推進会議
- プログラム
 - ・開会挨拶：国土技術政策総合研究所 下水道研究部長 藤木 修
 - 【第1部 基調講演】
 - ・「水質保全のための国際協力について」
京都大学 教授 津野 洋
 - 【第2部 講演(関係諸国からの報告)】
 - ・「非特定汚染源を対象とした汚濁負荷の総量規制—モデル開発と事例研究—」
清華大学 准教授 杜 鵬飛(DU Pengfei)
 - ・「中国における水危機とその解決策」
同済大学 教授 李 光明(Li Guang-Ming)
 - ・「漢江流域における排出汚濁負荷量の把握と将来予測による水質管理方策」
ソウル市政開発研究院 前任研究委員 金 甲守(KIM Kap-Soo)
 - ・「流域の地勢的な特徴及び人為的負荷の指標としての河川水質の時間的及び空間的変動性(ロシア極東域の事例)」
ロシア科学院太平洋地理学研究所長 Vladimir SHULKIN
 - ・「大阪湾再生の取組について」

国土交通省 近畿地方整備局 企画部 技術企画官 阪井田 茂

・「日本における汚濁物質流出モデルの開発と政策立案への適用閉鎖性海域への汚濁物質流達負荷量の推定方法」

国土技術政策総合研究所 下水道研究部長 藤木 修

【第3部 ディスカッション】

・「海洋環境保全のための陸域対策と研究者の役割」

総司会：北九州市立大学 教授、九州大学 名誉教授 楠田 哲也

パネラー：講演者

・閉会挨拶 京都大学 教授 津野 洋

■ 参加者：総勢 115 名

2009 年度は、東京都内、芝パークホテルで国際会議を開催した。プログラムは以下の通りである。

■ タイトル：国際シンポジウム「日本近海における海洋環境保全—陸域対策のための研究パートナーシップ」
International Meeting for the Clean Water in Our Northwest Pacific Sea—Research Partnership for Land-Based Actions—

■ 開催日時：2010 年 2 月 23 日（火） 9：30～12：30

■ 開催場所：芝パークホテル 桜の間

■ 主催：日本上下水道設計株式会社

■ プログラム

【日本近海における海洋環境の保全に関する研究—中間報告—】

・開会挨拶：国土技術政策総合研究所 下水道研究室長 松宮 洋介

・研究概要のレビュー

国土技術政策総合研究所 下水道研究室 研究官 藤原 弘道

・日本近海における陸域からの汚濁負荷モデルについて

日本上下水道設計株式会社 嶋津 陽子

・日本近海における海洋海流シミュレーションモデルについて

いであ株式会社 畑 恭子

・閉会挨拶：国土技術政策総合研究所 下水道研究室長 松宮 洋介

2010 年度は、東京都内、東京ベイ有明ワシントンホテルで国際会議を開催した。会議の場では、3 箇年の研究の調査結果の概要を各先生方に発表した。具体的には関係諸国陸域からの汚濁負荷流出モデルの構築手法とその計算結果、ならびに海洋海流シミュレーションの構築手法とその計算結果などについて日本側から説明を行った。会議の場では、海外の先生方からも我々の調査手法、計算結果について、過年度からの修正が加わっていることを確認いただき、調査の中で得られたデータの範囲では適切な解析手法・計算結果であるというコメントをいただいている。

■ タイトル：日本近海における海洋環境の保全に関する研究 国際ワークショップ

■ 開催日時：2011 年 2 月 9 日（水） 9：30～11：30

■ 開催場所：東京ベイ有明ワシントンホテル

■ 出席者（表-5.1 参照）

表-5.1 出席者名簿

区分	所属	氏名
韓国	前 ソウル市政開発研究院 前任研究委員	金 甲守
中国	同済大学 環境科学工学院 教授	李 光明
〃	清華大学 環境学院 院務委員会主任 准教授	杜 鵬飛
ロシア	ロシア科学院太平洋地理学研究所 所長	ウラジミール シュルキン
日本	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科 教授	楠田 哲也
〃	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科 教授	門上 希和夫
〃	国土技術政策総合研究所 下水道研究部 部長	堀江 信之
〃	国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水道研究官	榑原 隆
〃	国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水道研究室 室長	横田 敏宏
〃	国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水道研究室 主任研究官	重村 浩之
〃	国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水道研究室 研究官	藤原 弘道
〃	日本上下水道設計株式会社 技術本部 技術顧問	佐藤 和明
〃	日本上下水道設計株式会社 技術本部 アセットマネジメント部長	中山 義一
〃	日本上下水道設計株式会社 技術本部 環境マネジメント部	甘 長准
〃	日本上下水道設計株式会社 東京支社 東京総合事務所 設計一部 部長	栗原 清
〃	日本上下水道設計株式会社 大阪支社 大阪総合事務所 設計一部	金 泰成
〃	株式会社エヌジェーエス・コンサルタンツ 技術二部	嶋津 陽子
〃	いであ株式会社 国土環境研究所 技師長	糸井 正夫
〃	いであ株式会社 国土環境研究所 水環境解析グループ 主査研究員	畑 恭子

■ プログラム

- ・開会挨拶：国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水道研究官 榑原 隆
- ・日本近海における海洋環境の保全に関する研究の概要説明
 国土技術政策総合研究所 下水道研究室 研究官 藤原 弘道
- ・日本近海における陸域からの汚濁負荷シミュレーションについて
 日本上下水道設計株式会社 嶋津 陽子
- ・日本近海における海洋海流シミュレーションについて
 いであ株式会社 畑 恭子
- ・日本近海における海洋環境保全対策について
 国土技術政策総合研究所 下水道研究室 主任研究官 重村 浩之
- ・閉会挨拶：国土技術政策総合研究所 下水道研究室長 横田 敏宏



図-5.1 国際会議の様子



図-5.2 国際会議出席者